

ときつちよう うちどく すいしん  
時津町は「家読」を推進しています

# たまには テレビをけして

ちゅうがくねん む 2025年 ねん ぶゆごう  
中学年向け 2025年 冬号



ときつちようりつときつとしよかん  
発行：時津町立時津図書館

## うちどく 家読とは

かぞく みんなで好きな本を読んで、読んだ本  
について話す。これが「うちどく（家読）」  
です。むずかしいルールはいりません。  
かぞく みんなでルールを決めてはじめてみま  
しょう。

かぞく おな ほん よ  
家族で同じ本を読みあったり、おとうさん  
やおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい  
時間を過ごしましょう。



Illustrator ATSUKO



「マグルスウィックの森のおはなし」  
ヴィッキー カウイー//作 チャーリー マッケジ  
ー//絵 小宮 由//訳（主婦の友社）

イングランドの北東部、むらさき色のヒ  
ースでおおわれた、マグルスウィックの森  
での出来事。「森の魔法」に「ふしぎな  
虫」「屋敷のひみつ」など、ワクワクする  
お話が5つ。さあ、この赤い表紙を開い  
て、マグルスウィックの森へいってらっし  
ゃい。



「絵くんとことばくん」  
天野 祐吉/作 大槻 あかね/絵  
(福音館書店)

あなたはお小遣いをいくらもらって  
いますか？ この絵本は小学生の優太くん  
が、お小遣いアップを訴えるポスターを  
作るお話です。絵（くん）とことば（く  
ん）それぞれが持つ力を発揮して、より  
効果的なポスターを目指します。できあ  
がってはボツになるポスターたち。それ  
がとっても愉快なんです！はたして  
出来上がったポスターはいかに？



「みんな  
いっちゃった」

エーヴァ リンドストロム//作 菱木 晃子//訳  
(小学館)

フランクはいつもひとりぼっちで、同じ  
ような毎日を繰り返しています。楽しそう  
なあのこたちに話しかけたいけれど、勇気  
がなかなかでません。いつものように、な  
みだをなべにうけて、それを火にかけてい  
ると、きょうはちょっとちがうことがおき  
るようです。



「牛革のランドセルができるまで 手から  
手へ、皮から革へ。」

上吉川 祐一//写真 文（文一総合出版）

みんなが毎日せおっているランドセルは、  
「牛皮」でできている。そう、牛の皮のこと  
ね。1匹の牛から、肉は食用になり、皮は  
加工して、「革」になる。その革はカバンにな  
ったり、洋服になったり、いろんな物に形を  
変えて、利用されるんだ。「皮」が「革」にな  
るまでのことが、くわしく書いてあるよ。

牛の「いのち」をいただいてできたランドセ  
ル、大事に使いたいね。



「知ったかぶりをした日から」

かさい まり//作 おとない ちあき//絵  
(岩崎書店)

東京から転校してきたばかりの私に、「ね  
え、北川アオイにあったことある？話したこと  
ある？」とクラスの子が聞いてきた。歌手で  
女優の北川アオイがこの学校に撮影に来ること  
になったからだ。私はとっさに「う、うん」  
と言ってしまった。すると話はどんどん大き  
くなり、北川アオイと私は知り合いというこ  
とになってしまった。どうしよう…知ったかぶ  
りをしたばかりに…。



「きょうのぼくはどこまでだって  
はしれるよ」

荒井 良二/著  
(NHK出版)

朝日をあびると、なんだってできそうな  
気がする。どこまでだって走れる気がす  
る。本のページをめくるように、ぼくの  
前には新しい毎日がつづいているから。どん  
なにかないしい時も、どんなにさみしい時  
も、朝はかならずやってくる。それはぼく  
らと地球との約束だから。